(19) (11) Publication number: 1

Generated Document.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(21) Application number: **10007321**

(22) Application date: **19.01.98**

(51) Intl. Cl.: **G06F 3/06** G06F 3/06

(30) Priority:

(43) Date of application publication: **30.07.99**

(84) Designated contracting states:

(71) Applicant: **FUJITSU LTD**

(72) Inventor: **TAKEDA SUIJIN**

(74) Representative:

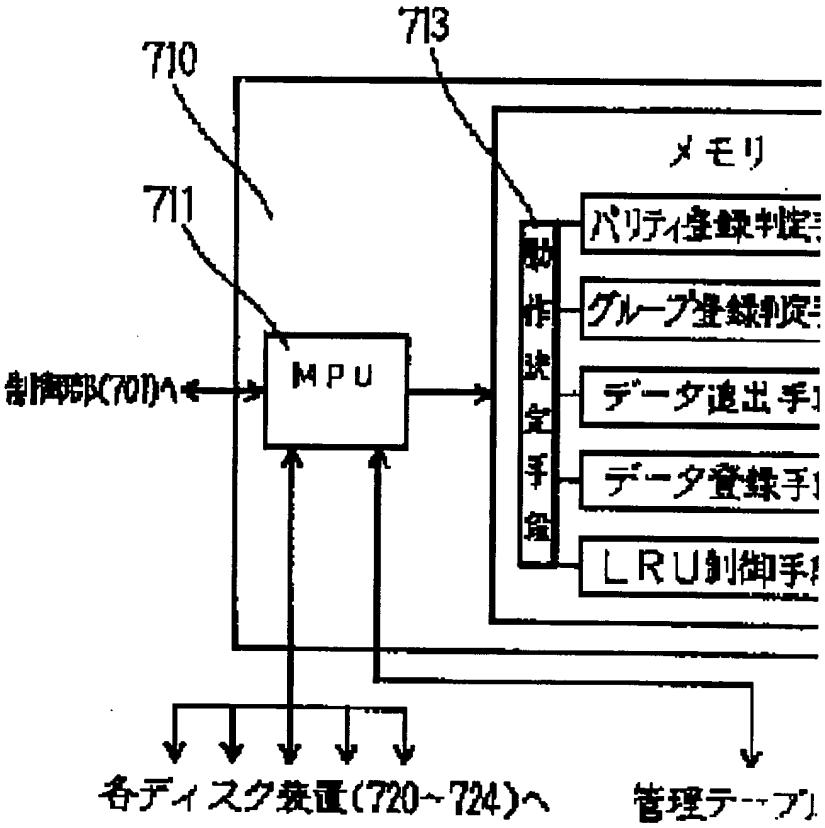
(54) INPUT/OUTPUT CONTROLLER AND ARRAY DISK DEVICE

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To eliminate deceleration of access speed and to enable high-speed access by providing a cache managing part with a group register means for discriminating whether the other data consisting of a parity group, to which the data of access object belong, are registered on a cache memory or not.

SOLUTION: A group registration discriminating means 717 of a cache managing part 710 judges whether the other data consisting of the parity group, to which the object data belong, are already registered in the cache memory or not. The group registration discriminating means 717 refers to an entry table in a managing table. The group registration discriminating means 717 retrieves the logical block number of data as

the access object out of 'object blocks' in the entry table. When the object logical block is detected, the parity data of the parity group, to which the object data belong, are already registered in the cache memory but when such a block is not detected, these data are not registered.



(19)日本国特許庁（ＪＰ）　(12)公開特許公報（A）　(11)特許出願公開番号
特開平11－203056
(43)公開日　平成11年(1999)７月30日

(51)Int.Cl.[6]	識別記号	FI	
G06F 3/06	540	G06F 3/06	540
	302		302A
			302Z

審査請求　未請求　請求項の数８　ＯＬ　（全 22 頁）

(21)出願番号　特願平10－7321

(22)出願日　平成10年(1998)１月19日

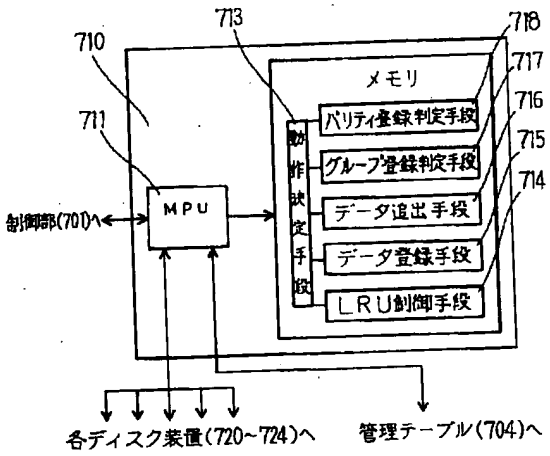
(71)出願人　000005223
富士通株式会社
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号

(72)発明者　武田　帥仁
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号　富士通株式会社内

(74)代理人　弁理士　井桁　貞一

(54)【発明の名称】　入出力制御装置及びアレイディスク装置

(57)【要約】
【課題】ディスク待ち時間によるアクセス速度の低下をなくし、信頼性が高く、かつ高速アクセスを可能とするＲＡＩＤ４及びＲＡＩＤ５型のディスク装置を実現すること。
【解決手段】キャッシュ管理部（７１０）はアクセス対象となったデータが属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判定するグループ登録判定手段（７１７）を含むこと、を特徴とする入出力制御装置を提供する。



【特許請求の範囲】
【請求項１】複数の入出力装置に接続され、当該入出力装置に格納されているデータを記憶するキャッシュメモリと、
該キャッシュメモリに記憶されているデータが格納されるべき前記入出力装置上の位置を示すキャッシュメモリ管理テーブルと、
前記キャッシュメモリ管理テーブルを用いて前記入出力装置と当該キャッシュメモリとの間でのデータ転送を制御するキャッシュ管理部と、
上位装置からの要求に応じて、前記キャッシュ管理部の判断に基づき上位装置とキャッシュメモリとの間のデータ転送を制御する制御部と、を備えた入出力制御装置であって、
前記キャッシュ管理部は、アクセス対象となったデータが属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判定するグループ登録判定手段を含むこと、を特徴とする入出力制御装置。
【請求項２】請求項１記載の入出力制御装置であって、前記キャッシュ管理部は、アクセス対象となったデータを基礎として作成された冗長データがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判定するパリティ登録判定手段を含むこと、を特徴とする入出力制御装置。
【請求項３】請求項１記載の入出力制御装置であって、前記キャッシュ管理部は、アクセス頻度に応じてキャッシュメモリ上に登録されているデータの優先順位を決定するという制御を行うＬＲＵ制御手段を含み、
該ＬＲＵ制御手段は、キャッシュメモリ上に登録されたパリティデータを当該ＬＲＵ制御の対象としないこと、を特徴とする入出力制御装置。
【請求項４】請求項１記載の入出力制御装置であって、前記キャッシュメモリ管理テーブルは、冗長データと当該冗長データを作成する基礎となった全てのデータとの対応を示す情報を備えること、を特徴とする入出力制御装置。
【請求項５】請求項１記載の入出力制御装置であって、前記キャッシュ管理部は、キャッシュメモリ上に登録されているある冗長データを作成する基礎となったデータのいずれか一つがキャッシュメモリ上に登録されている限り当該冗長データをキャッシュメモリ上に登録し続ける機能を備えたデータ追出し手段を含むこと、を特徴とする入出力制御装置。
【請求項６】請求項１記載の入出力制御装置であって、前記キャッシュ管理部は、冗長データを作成する基礎となったデータのいずれか一つをキャッシュメモリ上に登録する場合には当該冗長データも登録する機能を備えたデータ登録手段を含むこと、を特徴とする入出力制御装置。
【請求項７】請求項１記載の入出力制御装置であって、前記キャッシュ管理部は、前記冗長データと該冗長データを作成する基礎となったデータとの全てを一体としてキャッシュメモリへの登録を管理する機能を備えたデータ登録手段を含むこと、を特徴とする入出力制御装置。
【請求項８】上位装置との間で転送されるデータが分散して格納されるとともに、該分散されたデータに基づいて作成される冗長データが格納される複数の入出力装置と、
該複数の入出力装置に接続され、当該入出力装置に格納されているデータを記憶するキャッシュメモリと、
該キャッシュメモリに記憶されているデータが格納されるべき前記入出力装置上の位置を示すキャッシュメモリ管理テーブルと、
前記キャッシュメモリ管理テーブルを用いて前記入出力装置と当該キャッシュメモリとの間でのデータ転送を制御するキャッシュ管理部と、
上位装置からの要求に応じて、前記キャッシュ管理部の判断に基づき十い有為装置とキャッシュメモリとの間のデータ転送を制御する制御部と、を備えたアレイディスク装置であって、
前記キャッシュ管理部は、キャッシュメモリ上に登録されているある冗長データを作成する基礎となったデータのいずれか一つがキャッシュメモリ上に登録されている限り当該冗長データをキャッシュメモリ上に登録し続ける機能を備えたデータ追出し手段を含むこと、を特徴とするアレイディスク装置。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】本発明は、複数のディスク装置を並列にアクセスしてデータ入出力処理を行う入出力装置及びアレイディスク装置に関するものである。特にディスク装置に格納したデータを更新する場合の性能を向上させた入出力制御装置及びアレイディスク装置に関する。
【０００２】
【従来の技術】従来、カリフォルニア大学バークレイ校のデビッド・Ａ・パターソン（Ｄａｖｉｄ　Ａ．　ＰａｔｔｅｒＳ６ｎ）らは、大量のデータを多くのディスクに転送することで、高速かつ高いデータの信頼性を実現するディスクアレイ装置について、レベル１から５までに分類付けを行って評価した論文を発表している（ACMS IGMOD Conference, Chicago, Illinois, June 1-3, 1988P109-P166 ）。
【０００３】このデビッド・Ａ・パターソンらが提案したディスクアレイ装置を分類する際に用いられる、レベル１から５という概念は、ＲＡＩＤ（ＲｅｄｕｎｄａｎｔＡｒｒａｙＳ６ｆ　Ｉｎｅｘｐｅｎｓｉｖｅ　Ｄｉｓｋｓ）１から５と略称される。本発明は、以上のＲＡＩＤレベルによる分類においては、特にＲＡＩＤ４及びＲＡＩＤ５に関するものである。

【０００４】図１６は、従来のキャッシュ管理部（７１０）の構造を示したものである。以降、全図を通して同一部分には同一番号を付す。
キャッシュ管理部（７１０）は、ＭＰＵ（７１１）及びメモリ（７１２）から構成されている。ＭＰＵは、メモリ、管理テーブル（７０４）、各ディスク装置（７２０～７２４）及び制御部（７０１）と通信可能に接続されている。メモリにはＭＰＵの動作を制御するためのマイクロプログラムが格納されている。ＭＰＵは、このマイクロプログラムによって記述された制御論理に従って管理テーブルや制御部との通信を行い、キャッシャメモリ上に登録されているデータの管理を行う。　メモリに格納されているマイクロプログラムは、動作決定手段（７１３）、ＬＲＵ制御手段（７１４）、データ登録手段（７１５）及びデータ追出手段（７１６）を含むものである。
【０００５】動作決定手段は制御部からの通信を検知する。また、キャッシュ管理部が行うべき処理を決定し各処理を実行する個々の手段を起動する。動作決定手段は、ディスク装置及び上位装置から転送されたデータをキャッシュメモリ上に登録する必要があるときはデータ登録手段を起動する。データ登録手段は、キャッシュメモリに格納されたデータを有効にするためにキャッシュメモリ（７０３）上の管理テーブル（７０４）を編集する。そしてデータ登録手段は、当該データを登録済みの状態にする。次に、動作決定手段はＬＲＵ制御手段を起動する。ＬＲＵ制御手段は登録されたデータのキャッシュメモリ内における優先順位を決定し、管理テーブルに反映する。
【０００６】動作決定手段は、既に使用されているキャッシュメモリ等を解放する必要の生じた場合は、まずＬＲＵ制御手段を起動する。ＬＲＵ制御手段は管理テーブルを参照する。これにより、ＬＲＵ制御手段はキャッシュメモリ上に登録されているデータの優先順位を認識する。その結果、ＬＲＵ制御手段はキャッシュメモリ上から登録を抹消すべきデータを決定する。動作決定手段は、ＬＲＵ制御手段が決定したデータを抹消するために、データ追出し手段を起動する。データ追出し手段は、管理テーブルを編集する。そしてデータ追出し手段は、キャッシュメモリに格納されているデータを未登録状態にする。
【０００７】また、動作決定手段は、アクセス対象となるデータがキャッシュメモリ上に登録されているか否かの問い合わせを制御部から受けると、ＬＲＵ制御手段を起動する。ＬＲＵ制御手段は、管理テーブルを参照して対象データがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判断する。そして、ＬＲＵ制御手段は処理を動作決定手段に戻す。動作決定手段は、ＬＲＵ制御手段が判断した対象データの状態を制御部に通知する。
【０００８】
【発明が解決しようとする課題】以上のように、ＲＡＩＤ４あるいはＲＡＩＤ５技術は、ディスク装置の信頼性を飛躍的に高めることを可能とする。しかし、そのためには、パリティデータを常に正しい値に保っておく必要がある。つまり、あるデータが書き換えられた場合には、当該データが属するパリティグループのパリティを再計算し、当該データの格納と同時にパリティデータの更新も行わなければならない。　このため、データを書き込む際には、当該データを含む記憶ブロックへアクセスを行うだけでなく、パリティデータを含む記憶ブロックへのアクセスをも必要とする。
【０００９】したがって、本発明における形態のディスク制御装置においては、書込みに際して、必ず複数のディスク装置へのアクセスが必要となる。つまり、ディスク装置の位置付け待ち及び回転待ちが複数のディスク装置に対して生する。このため、従来型のディスク装置に比べて、ＲＡＩＤ４あるいはＲＡＩＤ５はディスク装置の待ち時間が増加するのである。つまり、ＲＡＩＤ４及びＲＡＩＤ５では、書込み処理においては、大幅な速度低下を起こすこととなる。
【００１０】本発明は、このようなディスク待ち時間によるアクセス速度の低下をなくし、信頼性が高く、かつ高速アクセスを可能とするＲＡＩＤ４及びＲＡＩＤ５型のディスク装置を実現することを目的とする。
【００１１】
【課題を解決するための手段】以上のような問題を解決するために、請求項１に記載の発明は、図１に示すように、複数の入出力装置に接続され当該入出力装置に格納されているデータを記憶するキャッシュメモリ（７０３）と、該キャッシュメモリに記憶されているデータが格納されるべき前記入出力装置上の位置を示すキャッシュメモリ管理テーブル（７０４）と、前記キャッシュメモリ管理テーブルを用いて前記入出力装置と当該キャッシュメモリとの間でのデータ転送を制御するキャッシュ管理部（７１０）と、上位装置（７３０）からの要求に応じて前記キャッシュ管理部の判断に基づき上位装置とキャッシュメモリとの間のデータ転送を制御する制御部（７０１）と、を備えた入出力制御装置（７００）であって、前記キャッシュ管理部（７１０）はアクセス対象となったデータが属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判定するグループ登録判定手段（７１７）を含むこと、を特徴とする入出力制御装置を提供する。
【００１２】本請求項に記載された発明にあっては、キャッシュメモリに登録されているデータを追い出す場合に、当該データが属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に登録されている場合にはパリティデータをキャッシュメモリ上に維持することができる。また、当該他のデータがキャッシュメモリ上に存在しない場合には、パリティデータも追い出し対象

データと同時に追い出すことができる。

【００１３】請求項２に記載された発明は、前記キャッシュ管理部が更に図１に示すアクセス対象となったデータを基礎として作成された冗長データがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判定するパリティ登録判定手段（７１８）を含むこと、を特徴とする入出力制御装置を提供する。　本請求項に記載された発明にあっては、既にキャッシュメモリに登録されているパリティデータについては、再度のデータ転送を抑止することができる。

【００１４】請求項３に記載された発明は、前記キャッシュ管理部が更に図１に示すようにアクセス頻度に応じてキャッシュメモリ上に登録されているデータの優先順位を決定するという制御を行うＬＲＵ制御手段（７１４）を含み、該ＬＲＵ制御手段はキャッシュメモリ上に登録されたパリティデータを当該ＬＲＵ制御の対象としないこと、を特徴とする入出力制御装置を提供する。

【００１５】本請求項に記載された発明にあっては、パリティデータを一般のユーザデータと区別して取り扱うことができる。請求項４に記載された発明は、前記キャッシュメモリ管理テーブルが冗長データと当該冗長データを作成する基礎となった全てのデータとの対応を示す情報を備えること、を特徴とする入出力制御装置を提供する。

【００１６】本請求項に記載された発明にあっては、請求項１に記載された発明と同様に、キャッシュメモリに登録されているデータを追い出す場合に、当該データが属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に登録されている場合にはパリティデータをキャッシュメモリ上に維持することができる。請求項５に記載された発明は、前記キャッシュ管理部が更に図１に示すキャッシュメモリ上に登録されているある冗長データを作成する基礎となったデータのいずれか一つがキャッシュメモリ上に登録されている限り当該冗長データをキャッシュメモリ上に登録し続ける機能を備えたデータ追出し手段（７１６）を含むこと、を特徴とする入出力制御装置を提供する。

【００１７】本請求項に記載された発明も請求項１に記載された発明と同様に、キャッシュメモリに登録されているデータを追い出す場合に、当該データが属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に登録されている場合にはパリティデータをキャッシュメモリ上に維持することができる。請求項６に記載された発明は、前記キャッシュ管理部が、更に図１に示す冗長データを作成する基礎となったデータのいずれか一つをキャッシュメモリ上に登録する場合には当該冗長データも登録する機能を備えたデータ登録手段（７１５）を含むこと、を特徴とする入出力制御装置を提供する。

【００１８】本請求項に記載された発明にあっては、予めパリティデータをキャッシュメモリ上に登録しておくことができる。このため、上位装置から書込み処理を要求された際にディスク装置へのアクセスを行わないで済む。請求項７に記載された発明は、前記キャッシュ管理部が、更に図１に示す前記冗長データと該冗長データを作成する基礎となったデータとの全てを一体としてキャッシュメモリへの登録を管理する機能を備えたデータ登録手段（７１５）を含むこと、を特徴とする入出力制御装置を提供する。　本請求項に記載された発明にあっては、あるパリティグループに含まれる全てのデータを一群のデータとして管理できる。

【００１９】請求項８に記載された発明は、上位装置との間で転送されるデータが分散して格納されるとともに該分散されたデータに基づいて作成される冗長データが格納される複数の入出力装置と、該複数の入出力装置に接続され当該入出力装置に格納されているデータを記憶するキャッシュメモリと、該キャッシュメモリに記憶されているデータが格納されるべき前記入出力装置上の位置を示すキャッシュメモリ管理テーブルと、前記キャッシュメモリ管理テーブルを用いて前記入出力装置と当該キャッシュメモリとの間でのデータ転送を制御するキャッシュ管理部と、上位装置からの要求に応じて前記キャッシュ管理部の判断に基づきディスク装置とキャッシュメモリとの間のデータ転送を制御する制御部と、を備えたアレイディスク装置であって、前記キャッシュ管理部はキャッシュメモリ上に登録されているある冗長データを作成する基礎となったデータのいずれか一つがキャッシュメモリ上に登録されている限り当該冗長データをキャッシュメモリ上に登録し続ける機能を備えたデータ追出し手段を含むこと、を特徴とするアレイディスク装置を提供する。

【００２０】本請求項に記載された発明にあっては、請求項１に記載された発明と同様に、キャッシュメモリに登録されているデータを追い出す場合に、当該データが属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に登録されている場合にはパリティデータをキャッシュメモリ上に維持することができる。

【００２１】

【実施の形態】Ａ．入出力装置の全体構成の説明

図７は、本発明が適用されるディスク制御装置の説明図である。ディスク制御装置（７００）には、複数のディスク装置（７２０～７２４）が接続されている。各ディスク装置には、上位装置（７３０）との間で転送されるデータが一定長づつ分散されて格納されている。

【００２２】また、ディスク制御装置（７００）は、キャッシュメモリ（７０３）と、キャッシュ管理部（７０２）と、制御部（７０１）と、から構成されている。キャッシュメモリには、ディスク装置（７２０～７２４）に格納されているデータの一部及び、キャッシュメモリ（７０３）上に記憶されているデータと当該データが格納されるべき前記ディスク装置内の位置関係を示す管理

テーブル（７０４）から成る。

【００２３】キャッシュ管理部（７０２）は、前記管理テーブルの参照や更新を行う。また、キャッシュ管理部はキャッシュメモリ（７０３）上に記憶されるデータの管理及び制御も行う。制御部（７０１）は、上位装置（７３０）からの要求に応じて、キャッシュメモリ（７０３）と上位装置との間でのデータ転送を行う。

【００２４】図７では、一例として上位装置との間で転送されるデータが五つのディスク装置に分散されて格納されている場合を示している。ただし、五つのディスク装置（７２０～７２４）のそれぞれについて、同一のアドレスで示されるブロックに格納さているデータに着目した場合、実際に上位装置との間で転送されるデータが格納されているディスク装置は四つである。そして、残りの一つのディスク装置には前記四つのディスク装置に格納されたデータから作成されるパリティデータが格納されている。

【００２５】これを図８において模式的に示す。図８は図７で示した五つのディスク装置のデータ格納状態を示している。それぞれのディスク装置（Ｄｉｓｋ０～Ｄｉｓｋ４）には五つの記憶ブロックが存在し、それぞれBlock0～Block4と呼ぶ。したがって、これら複数のディスク装置内のブロックは、ディスク装置番号とブロック番号を用いることで特定することができる。このディスク装置番号とブロック番号を用いる対象データの指定方法を物理アドレスによる指定と呼ぶ。

【００２６】ところで、ディスク制御装置は、上位装置とのインタフェース上の互換性を保つ必要がある。したがって、当該ディスク制御装置は一つの大容量ディスク装置のみが接続されているが如く動作する必要がある。このため、上位装置からの、それぞれの記憶ブロックに対するアクセスは、上位装置が認識しているディスク装置、すなわち制御装置がエミュレーションしている仮想的なディスク装置に対する番号と当該仮想的なディスク装置内の仮想的なブロック番号で指定される。このような上位装置が用いる特定ブロックの指定方法を論理アドレスによる指定と呼ぶ。

【００２７】論理アドレスは、通常０から１づつ昇順に存在する。前述したようにディスク制御装置は、上位装置から指定されるアドレスを論理アドレスと認識する。そして、実際にディスク制御装置にアクセスする際には、論理アドレスを物理的アドレス、すなわち物理ディスク装置番号と当該物理ディスク装置内の物理ブロック番号に変換して、アクセスを行う。

【００２８】各物理ディスク装置Ｄｉｓｋ０からＤｉｓｋ４には、それぞれ記憶ブロックが存在する。ある記憶ブロックを一意に指定する場合は、ディスク番号とブロック番号が必要である。例えば、ＬＢ－６を指定する場合は、物理アドレスＤｉｓｋ２／Ｂｌｏｃｋ２を指定する。しかし、ディスク制御装置は、上位装置にはＤｉｓｋ０～Ｄｉｓｋ４の複数のディスク装置を論理的に一台のディスク装置として認識させなければならない。このため、ディスク制御装置は、ディスク制御装置上で論理アドレスを物理アドレス、すなわち物理ディスク番号と当該物理ディスク装置におけるブロック番号との組み合わせに変換する必要がある。

【００２９】ディスク制御装置は、この論理アドレスを装置内で物理アドレスに変換して目的のデータにアクセスしている。以下、この変換方法の一例を示す。ただし、説明を簡単にするため、当該ディスク制御装置は、一つの仮想的なディスク装置のみ存在しているが如く動作するものとする。従って、以下の説明では、仮想的なディスク番号については説明を省略する。

【００３０】論理アドレスから物理アドレスへの変換は、接続されている物理ディスク装置の台数に基づいて行われる。つまり、対象となる物理ディスク装置の番号は、以下の値を用いて決定することができる。

値Ａ＝｛論理アドレス／（物理ディスク装置台数－１）｝の余り

値Ｂ＝｛論理アドレス／（物理ディスク装置台数－１）｝の小数点以下を切り捨てた値

値Ｃ＝（値Ｂ／物理ディスク装置台数）の余り

とすると物理ディスク番号は、図９に示した表から求められる。

【００３１】また、対象となる物理ブロック番号は、前述した式により求められる値Ｂである。具体的には、図８の様な構成であれば、接続されている物理ディスク装置の台数が５台であるから、論理アドレスから物理アドレスを求めるには以下の値を用いる。

値Ａ＝｛論理アドレス／（５－１）｝の余り

値Ｂ＝｛論理アドレス／（５－１）｝の小数点以下を切り捨てた値

値Ｃ＝（値Ｂ／５）の余り

例えば、論理アドレスが１１であれば、値Ａ＝３、値Ｂ＝２、値Ｃ＝２、となるから図９の表よりディスク4 が決定される。物理アドレスはディスク４のブロック番号２となる。

【００３２】ところで、五つのディスク装置の同一ブロック番号で示される領域に着目した場合、以上の変換によれば、四つのディスク装置には上位装置との間で転送されるデータが格納されるが、残りの一つにはデータが割当てられないこととなる。このデータが割当てられないブロックには、他のディスク装置の同一ブロック番号に格納されているデータから作成されるパリティデータが格納される。このパリティデータが存在することにより本発明にかかるディスク装置は、その冗長性、ひいては信頼性を向上させている。

【００３３】また、パリティが格納される物理ディスクは、以下の式から求められる。

値Ｄ＝（物理ディスク装置台数－１－値Ｃ）

図8に示した構成であれば、パリティが格納されている物理ディスクは、
値D＝（4－値C）
となる。例えば論理アドレス11を要素とするパリティが格納される物理ディスク番号はDisk2である。

【0034】ここで、あるパリティデータを作成するために用いられるデータ群と当該パリティとを含めた集合をパリティグループと呼ぶ。図8を用いて例示すれば、物理アドレスDisk0／Block0と、Disk1／Block0と、Disk2／Block0と、Disk3／Block0と、に含まれるデータから作成されたパリティデータP0が、物理アドレスDisk4／Block0に格納されている。そして、以上の五つのブロックが一つのパリティクループを形成していることとなる。

【0035】Dick0／Block1からDisk4／Block1についても、これと同様に上位装置との間で転送されるデータが分散格納される。ここで、パリティデータP1に関しては本実施例においてはディスク装置3に格納されるものとしている（RAID5）。これは便宜上のものであって、もちろんパリティデータを格納するディスクを固定して、常にDisk4に格納することとしても差し支えない（RAID4）。

B．キャッシュ管理部の説明

図2は、キャッシュ管理部（710）の動作を示したフローチャートである。キャッシュ管理部は、通常は制御部（701）からの通信待の状態にある（S201）。この状態は、動作決定手段にしたがってMPUが動作している状態である。動作決定手段に基づいて動作しているキャッシュ管理部は、制御部からの通信を検出すると（S202）、処理をLRU制御手段（714）に移す。LRU制御手段は、制御部から通知されたデータがキャッシュメモリ（703）上に記憶されているか否かを判断する。このために、LRU制御手段は、管理テーブル内に記録されているリンクテーブルを検索する（S203）。管理テーブルの一例は図5及び図6に示す。

【0036】管理テーブルは、ポインタテーブルとリンクテーブルとから成る。ポインタテーブルには図5（A）に示すように、LRUの最上位と最下位に位置づけられているデータの論理アドレスが表わされている。リンクテーブルには図5（B）に示すように、キャッシュメモリ上に登録されているブロック毎に論理ブロックのリンク状態が示されている。このリンク状態は、直前の論理アドレスと直後の論理アドレスとを示すことで表わされている。エントリテーブルは、図6に示すように、対象ブロック番号と登録されているブロックを示すビットマップと、パリティデータ格納アドレスとから構成されている。

【0037】エントリテーブルの同一行には、同一のパリティグループを構成するブロックのキャッシュメモリへの登録状況が記録されている。ここで、同一パリティグループを構成するブロックであっても、以前に読み出し要求を受けたか否かにより、キャッシュメモリ上に登録されているか否かが異なる。したがって、同一パリティグループを構成するブロックの内、どのブロックが登録されていて、どのブロックが登録されていないかを示すためにビットマップが使用される。

【0038】ビットマップは、4ビットから構成されており、各ビットが同一パリティグループを構成するブロックに対応している。ビットがセットされている(1になっている。）ブロックはキャッシュメモリ上に登録されている。また、ビットがセットされていない（0になっている。）ブロックはキャッシュメモリ上に登録されていないことを示している。

【0039】LRU制御手段（714）は、リンクテーブル内に対象データのエントリを発見すると、動作決定手段（713）に対し、対応するキャッシュメモリ上の格納アドレスとともにその旨を通して処理を動作決定手段に戻す。動作決定手段は、制御部に対して、当該データがキャッシュメモリに登録されている旨及び当該データのキャッシュメモリ上の格納アドレスを通知する（S254）。このように、対象データがキャッシュメモリ上に登録されている状態を「対象データはキャッシュヒットした」という。対象データがキャッシュヒットした場合は、キャッシュ管理部の処理は以上で終了する（S255）。動作決定手段は再び制御部からの次の通信待ち状態に移る（S201）。　LRU制御手段が、リンクテーブル内に対象データのエントリを発見できなかった場合は、動作決定手段にその旨を通して処理を動作決定手段に戻す。動作決定手段は、制御部に対して、当該データがキャッシュメモリに登録されていない旨の通知を行う（S204）。このように、対象データがキャッシュメモリ上に登録されていない状態を「対象データはキャッシュミスした」という。対象データがキャッシュミスした場合は、動作決定手段は、対象データをディスク装置からキャッシュメモリに読み出す必要が有ると判断する（S205）。そして、データ登録手段（715）を起動する。

【0040】データ登録手段は、制御部（701）から通知された論理アドレスを物理アドレスに変換することで、対象データが格納されているディスク装置及び当該ディスク装置内のブロック番号求める。　データ登録手段は、対象となるデータをキャッシュメモリ上に読み込む処理に移る。この動作を図3のフローチャートを用いて詳細に説明する。

【0041】データ登録手段（716）は、アクセス対象となるブロックを前記の計算により求める。この後、データ登録手段は、当該ブロックに格納されているデータを格納するための領域をキャッシュメモリ上に割当てる。キャッシュメモリ上への領域の割当ては、データ登

録手段が管理テーブルにエントリを確保することから始められる。

【0042】データ登録手段（715）は、まず、キャッシュメモリ（703）上に新たなデータを格納するための領域があるか否か及び各テーブル上に新たなエントリ用を登録するための領域が存在するか否かを確認する（S301）。キャッシュメモリ等に空き容量が存在しない場合は新たなデータの登録ができない。この場合は、データ登録手段は、キャッシュメモリ等を解放するために制御をデータ追出し手段に移す（S352）。

【0043】データ追出し手段はデータを登録するのに十分な領域をキャッシュメモリから解放する。これを「追出し処理」という。追い出し処理については後述する。データ追出し手段は、キャッシュメモリを解放した後、制御をデータ登録手段に戻す。データ登録手段はキャッシュメモリへのデータの登録処理を続行する。ここで、対象となるデータが属するパリティグループを構成する他のデータが、一つもキャッシュメモリ上に登録されていない状態であれば、データ登録手段は当該ブロックのデータだけでなく当該ブロックが属するパリティグループのパリティデータデータをもキャッシュメモリ上に登録する必要がある。このことを確認するために、データ登録手段は、グループ登録判定手段（717）を起動する。

【0044】グループ登録判定手段は、対象データが属するパリティグループを構成する他のいずれかのデータが既にキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判断する。このために、グループ登録判定手段は管理テーブル内のエントリテーブルを参照する。グループ登録判定手段は、エントリテーブルの「対象ブロック」の中からアクセス対象となっているデータの論理ブロック番号を検索する（S302）。

【0045】グループ登録判定手段は検出結果をデータ登録手段に通知した後に制御をデータ登録手段に戻す。対象となる論理ブロックが検出された場合は、対象データが属するパリティグループのパリティデータは既にキャッシュメモリ上に登録されていることを意味する。また、対象となる論理ブロックが検出されなかった場合はキャッシュメモリ上に登録されていないことを意味する。パリティデータが登録されていない場合、データ登録手段は対象データの登録と同時にパリティデータの登録も行う必要がある。

【0046】データ登録手段は、対象ブロックがエントリテーブルの中から検出されなかった場合には、キャッシュメモリ上に格納しようとしているデータを登録するための1ブロック分の領域をキャッシュメモリ上に確保する。そしてデータ登録手段は、更に1ブロック分の領域をキャッシュメモリ上に確保する必要がある（S304）。これは、今回のアクセス対象となっているブロックが含まれるパリティグループに属するパリティデータをもキャッシュメモリ上に登録するためである。データ登録手段は、キャッシュメモリへデータを登録するために確保した2ブロック分の領域を、アクセス対象となっているデータを含むブロックとパリティグデータを含むブロックとに割当てエントリテーブルに記録する（S305）。

【0047】データ登録手段は、今回登録されるブロックのパリティグループ内の位置を計算により求る。そして、データ登録手段は、ビットマップを作成して（S306）エントリテーブルに記録し（S307）、エントリテーブルに対する新規エントリの登録を完成する。一方、対象ブロックがエントリテーブルの中から検出された場合には、データ登録手段は、キャッシュメモリ上に格納しようとしているデータを登録するための1ブロック分の領域のみをキャッシュメモリ上に確保する（S354）。

【0048】データ登録手段は、キャッシュメモリへデータを登録するために確保した1ブロック分の領域を、アクセス対象となっているデータを含むブロックに割当て、エントリテーブルに記録する（S355）。データ登録手段は、今回登録されるブロックのパリティグループ内の位置を計算により求る。そして、データ登録手段は、既に登録されているビットマップの対応ビットをセットする（S356）。以上によりエントリテーブルに登録されている既存エントリの更新が完了する。

【0049】次に、データ登録手段は、管理テーブルの更新を行う。データ登録手段は、新規に作成したエントリをLRUリンクの最上位に登録する（S308）必要が有る。このため、図5に示したリンクテーブルとポインタテーブルを更新する。まず、データ登録手段は、ポインタテーブルを参照し、現在の最上位論理ブロックを把握する。次に、リンクテーブルの新規エントリに対応する登録を有効にする。このため、データ登録手段は、ポインタテーブルにＦｒｏｗａｒｄポインタには無効値が代入され、Ｂａｃｋｗａｒｄポインタには現在の最上位ポインタが代入されたエントリを新規に登録する。その後、データ登録手段は、ポインタテーブル上の今回最上位の地位を譲った論理ブロックのエントリに記録されているＦｏｒｗａｒｄポインタを新たに今回最上位に位置づけられた論理アドレスに変更する（S309）。

最後に、データ登録手段は、対象データ及び必要によってはパリティデータを含むディスク装置に対してキャッシュメモリ上へのデータ転送を指示する（S310）。

【0050】以上により、上位装置から指定されたデータをキャッシュメモリ上に格納する。また、対象データのキャッシュメモリへの登録がパリティグループ内の最初の登録である場合には、対象データとともに当該データを格納しているブロックが属するパリティグループのパリティデータもキャッシュメモリ上に格納することとなる。

【００５１】なお、本実施例おいては、リンク管理テーブルの更新をキャッシュメモリへのデータの登録前に行うこととしている。しかし、これはキャッシュメモリへのデータの登録を確認した後にリンクテーブルを更新するという手段を排除するものではない。データ登録手段は、ディスク装置に対してデータの転送を指示すると、制御を動作決定手段に戻す（Ｓ３１１）。以上で図3の説明は終了する。以下、説明を図2のフローチャートに戻して継続する。

【００５２】動作決定手段（７１３）は、ディスク装置からキャッシュメモリ上へのデータの転送終了を待つ（Ｓ２０６）。キャッシュ管理部は、データ転送が終了した後、制御部に対しデータの登録が完了した旨及び当該データのキャッシュメモリ上の格納アドレスを通知する（Ｓ２０７）。以上でキャッシュ管理部の処理は終了する（Ｓ２０８）。キャッシュ管理部は再び制御部からの次の通信待ち状態に移る（Ｓ２０１）。

【００５３】さて、ここからは前述したように追出し処理について説明する。追出し処理とは、データ登録手段が、キャッシュメモリ上に新規のデータを格納するための領域を確保できない場合に、既にキャッシュメモリ上に登録されている一部のデータを未登録状態に変更することをいう。データ登録手段は、データ追出し手段（７１６）を起動して追出し処理を行う。

【００５４】以下、図4のフローチャートを用いて、この追い出しの動作を詳細に説明する。データ追出し手段は、管理テーブル内に存在する図3（Ａ）に示したポインタテーブルを参照する。データ追出し手段は、ＬＲＵリンクの最下位に位置づけられている論理アドレスを認識する（Ｓ４０１）。キャッシュメモリからの追い出しの対象となるのは、この論理ブロックである。　データ追出し手段は、リンクテーブルの中から追出し対象として決定された論理ブロックを検索する（Ｓ４０２）。データ追出し手段は、該当エントリのＦｏｒｗａｒｄポインタの値を認識する（Ｓ４０４）。この値に対応する論理ブロックが、この後に最下位に位置づけられる論理ブロックとなる。

【００５５】データ出し手段は再びリンクテーブルを検索し、この後に最下位に位置づけられる論理ブロックのエントリを検出する（Ｓ４０５）。データ追出し手段は、該当エントリを検出した後ｂａｃｋｗａｒｄポインタに無効値を代入する（Ｓ４０７）。データ追出し手段は、追出し対象論理ブロックの登録を無効とする。このために、データ追出し手段は、追出し対象ブロックが登録されていたエントリに無効値を代入する（Ｓ４０８）。　次に、データ追出し手段は、エントリテーブルから追い出し対象のブロックに関する情報を削除する処理を開始する。

【００５６】データ追出し手段は、追い出し対象となっている論理ブロック番号をエントリテーブルの「対象ブロック番号」の項から検索する（Ｓ４０９）。データ追出し手段は、目的のエントリを検出した後、当該エントリのビットマップを更新する。具体的には追い出し対象となっている論理ブロックのパリティグループ内の位置を求め、対応するビットをリセットする（Ｓ４１１）。次に、データ追出し手段はグループ登録判定手段（７１７）を起動する。グループ登録判定手段は、追出し対象となった論理ブロックの属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判定する。

【００５７】グループ登録判定手段は、データ追出し手段がリセットした後のビットマップを参照する。そして、これらの全てが０となっているか否かを判定する（Ｓ４１２）。ビットマップが全て０であれば、当該パリティグループに属するデータはキャッシュメモリ上には一切存在しないことを意味する。逆に、一つでも0 以外のビットが存在するのであれば、当該パリティグループに属するデータがキャッシュメモリ上に未だ存在していることとなる。

【００５８】グループ登録判定手段は、追出し対象となったデータが属するパリティグループを構成する他のデータが、キャッシュメモリ上に存在するか否かという結果を伴って、制御をデータ追出し手段に戻す。追出し対象となったデータが属するパリティグループを構成する他のデータが、キャッシュメモリ上に存在しない場合は、データ追出し手段はキャッシュメモリを効率的に利用するためにパリティデータも追い出すこととする（Ｓ４１３）。パリティデータの追出し処理は、エントリテーブルに関する処理を除いて前述した通常データの追出し処理と同様に行われる。エントリテーブルに関しては、データ追出し手段が、該当エントリの「対象ブロック」の項に無効値を記録して、エントリ自体を解放することとなる（Ｓ４１４）。

【００５９】一方、追出し対象となったデータが属するパリティグループを構成する他のデータがキャッシュメモリ上に存在する場合であれば、データ追出し手段は、前述したビットマップの更新のみを行い、パリティデータはキャッシュメモリ上に維持し、エントリテーブル内のエントリも削除しない。　これで、データ追出し処理は終了し（Ｓ４１５）、データ追出し手段は制御をデータ登録手段に戻すこととなる。これにより、キャッシュメモリ上から、少なくとも１ブロック分の領域が解放されることとなる。

【００６０】さて、以上の説明においては１論理ブロックを単位に追い出し制御を行っている。しかし、制御装置の性能及びキャッシュメモリの容量いかんによっては、追い出し処理を１パリティグループ単位に行った方が妥当な場合もある。この場合には、例えばリンクテーブルのエントリをパリティグループ毎に設計し、ポインタテーブルが示す値をエントリ番号に変更することで対

応できる。

【0061】なお、本実施の形態においては、キャッシュ管理部（710）はMPU（711）とメモリ（712）とを備えることとし、各機能はMPUがメモリに格納されたマイクロプログラムに従って動作することよって実現されるものとして説明した。しかし、これはキャッシュ管理部に備える各機能をハードワイヤードロジックで実現し、本発明と同様の機能を実現するものを排除するものではない。

C．制御部の発明

図10は、制御部（701）の動作を示したフローチャートである。制御部は、通常、上位装置（730）からのアクセス又はキャッシュ管理部（710）からの応答待ちの状態にある（S1001）。制御部は、いずれかのアクセスがあったことを検出すると（S1002）、当該アクセスが上位装置からのものなのか、あるいはキャッシュ管理部からのものなのかを判断する（S1003）。

【0062】アクセスが上位装置からのものであった場合は、制御部はキャッシュ管理部に対象となるデータがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを問い合わせる（S1005）。制御部はキャッシュ管理部からの応答を待つ（S1006）。制御部は、キャッシュ管理部からの応答を解析し、対象データがキャッシュヒットなのかキャッシュミスであったのかを判断する（S1007）。　キャッシュヒットであった場合は、キャッシュ管理部からキャッシュメモリ上における対象データの格納アドレスも通知される。制御部は、当該アドレスと上位装置との間でデータ転送を開始する（S1051）。これにより、上位装置から要求された一連の処理は終了する（S1052）。制御部は再びアクセス待ち状態（S1001）に復帰する。

【0063】キャッシュミスであった場合は、制御部は対象データの読み出し処理が完了するのを待つ。このため、制御部は処理を一旦中断する（S1008）。制御部は、後にキャッシュ管理部からの応答を検出した場合に、中断された処理を再開することとなる（S1003）。制御部は、この間全く別の処理を行うことが可能である。

【0064】制御部がキャッシュ管理部からの応答を検出すると（S1003）、当該応答とともに通知されるキャッシュメモリと上位装置との間でデータ転送を行う（S1051）。以上で制御部は処理を終了する（S1052）。これにより、上位装置から要求された一連の処理は終了することとなるので、制御部は再びアクセス待ち状態（S1001）に復帰する。

【0065】

【実施例】次に、入出力制御装置が行う各処理ごとに、制御部及びキャッシュ管理部が具体的にどのように連携して動作するかを説明する。

A．キャッシュに登録するデータをブロック単位に管理する場合の実施例

（1）キャッシュヒットの場合

図11に示すオペレーションフロは、読み出し要求対象のデータがキャッシュメモリ上に記憶されている場合の制御部（701）及びキャッシュ管理部（710）の動作を示している。　制御部は、上位装置（730）からの読み出し要求を受け付けると、対象データがキャッシュメモリ（703）上に存在するか否かを判断するためにキャッシュ管理部にその旨を問い合わせる（S1101）。この問い合わせは、上位装置から指定される論理アドレスを伴って行われる。　キャッシュ管理部は、制御部から通知されたデータがキャッシュメモリ上に記憶されいてるか否かを判断する。このために、キャッシュ管理部は管理テーブル内のリンクテーブルを参照する。管理テーブルに備えられる各テーブルは図5及び図6に示す。管理テーブルの構成に関しては既に説明したので、ここでは省略する。

【0066】図5（A）に示すポインタテーブルにおいては、リンクの最上位に位置づけられている論理ブロックがLB－13であり、リンクの最下位に位置づけられているブロックがLB－3であることを示している。図5（B）に示すリンクテーブルおいては、論理ブロック13は最上位であるから直前の論理ブロックを表わすポインタに無効値が登録されている。また、エントリ3は最下位であるため直後のエントリを表わすポインタに無効値が登録されている。

【0067】例えば、LB－3、LB－18、LB－4～LB－7、LB－13の順でデータがキャッシュに登録された場合は、ポインタテーブル及びリンクテーブルはい上のようになる。またエントリテーブルは図6に示すようになる。エントリテーブル内のビットマップは、登録されている論理ブロックに対応するビットのみセットされる。したがって、それぞれ、0001，0010，11100100，0000となる。　なお、本実施例にあっては、1パリティグループに含まれる、上位装置との間で転送されるデータを格納しているブロックは4ブロックであり、かつ、論理アドレスの配置は昇順である。したがって、図6に示すエントリテーブルの「対象ブロック番号」には、パリティグループの先頭論理アドレスのみ記録しておくことで十分である。例えば上位装置から指定された論理アドレスが11であれば、「対象ブロック番号」に「8」と示されているエントリを探し出せばよい。

【0068】さて、本実施例にあっては、キャッシュメモリ上に対象データが登録されていると仮定している。したがって、キャッシュ管理部は、エントリテーブルを参照した結果、キャッシュメモリ上に当該データが存在すると認識する（S5201）。例えば、上位装置から指定された論理アドレスが13であるとする。キャッシ

ュ管理部は、エントリテーブルを参照してエントリ３（上から三つ目のエントリ）に対象ブロックが属しているパリティグループが登録されていることを発見する。次に、キャッシュ管理部はビットマップを参照して当該論理ブロックが登録されていることを認識する。

【００６９】キャッシュ管理部は、対象データがキャッシュメモリ上に記憶されている旨を当該データが格納されているメモリ上のアドレスと共に制御部に通知する（Ｓ１１５２）。これでキャッシュ管理部の処理は終了する（Ｓ１１５３）。制御部は、キャッシュ管理部から通知されたメモリアドレスを参照して、上位装置から要求されてデータを送出する（Ｓ１１０２）。これで制御部の処理は終了する（Ｓ１１０３）。

（２）キャッシュミスの場合

図１２のオペレーションフローは、読み出し要求対象のデータが、キャッシュメモリ（７０３）上に記憶されていない場合の制御部（７０１）及びキャッシュ管理部（７１０）の動作を示している。

【００７０】制御部は、上位装置からの読み出し要求を受け付けると、対象データがキャッシュメモリ上に存在するか否かを判断する。このために、制御部はキャッシュ管理部にその旨を問い合わせる（Ｓ１２０１）。この問い合わせは、キャッシュヒットの実施例で示した場合と同様に論理アドレスを伴って行われる。キャッシュ管理部は、制御部から通知されたデータがキャッシュメモリ上に記憶されているか否かを判断する必要がある。このために、キャッシュ管理部はキャッシュヒットの実施例で説明したエントリテーブルを参照する。

【００７１】本実施例においては、キャッシュメモリ上に対象データが存在しないと仮定している。したがって、キャッシュ管理部はエントリテーブルを参照した結果、対象となる論理アドレスを発見できないこ（Ｓ１２５１）。具体的には、キャッシュ管理部はリンクテーブル図５（Ｂ）を参照して、テーブル内に当該論理ブロックが登録されているか否かを判断する。例えば、上位装置が指定した論理アドレスが１１であって、リンクテーブルが図５（Ｂ）に示す状態であったとすると、論理ブロック１１は、登録されていないこととなる。

【００７２】キャッシュ管理部は、対象データがキャッシュメモリ上に記憶されていない旨及び当該データをディスク装置からキャッシュメモリ上に読み込む処理に移行する旨を制御部に通知する（Ｓ１２５２）。対象データがキャッシュメモリ上に記憶されていない旨の通知を受けた制御部は、キャッシュ管理部が対象データをキャッシュメモリ上に記憶するまで上位装置から受け付けた処理を一時中断する（Ｓ１２０２）。そして、制御部はデータの登録が完了するまで別の処理を進める。

【００７３】一方、キャッシュ管理部は、当該データをキャッシュメモリ上に読み込むための動作に移る。　キャッシュ管理部は、制御部から通知された論理アドレスを物理アドレスに変換する。これにより、キャッシュ管理部は対象データが格納されているディスク装置及び当該ディスク装置内のブロック番号求める。キャッシュ管理部ば、当該論理ブロックのデータをキャッシュメモリ上に読込む。また、キャッシュ管理部は、必要によっては当該ブロックが属するパリティグループに含まれるパリティデータデータをもキャッシュメモリ上に読み込む（Ｓ１２５３）。この具体的な動作を、図３のフローチャートと対比させながら説明する。

【００７４】キャッシュ管理部は、論理アドレスを前述した計算式及び図９を利用して物理アドレスに変換する。例えば、上位装置が指定した論理アドレスが１１であったとすると、値Ａ＝３、値Ｂ＝２、値Ｃ＝２となるから物理アドレスはＤＩＳＫ４／Ｂｌｏｃｋ２となる。キャッシュ管理部は、アクセス対象となるブロックを前記の計算により求めた後、当該ブロックに格納されているデータを格納するための領域をキャッシュメモリ上に割当てる。

【００７５】キャッシュメモリ上への領域の割当ては、管理テーブルにエントリを確保することから始められる。キャッシュ管理部は、リンクテーブルを参照し、エントリに空きがあるか否かを判断する（Ｓ３０１）。ここで、空きが無いと判断した場合はリンクの最下位のエントリを解放する（Ｓ３５２）。詳細は「データの追い出し」として、後述する。

【００７６】この時のテーブルの状況が例えば図５の状態であったととすると、未使用領域が存在することとなる。したがって、キャッシュ管理部は新たな領域に論理ブロック１１を登録することとする。　エントリテーブルに新規エントリの登録が可能である場合、あるいは最下位のエントリを解放した場合は、キャッシュ管理部はキャッシュメモリ上に格納しようとしているデータを登録するための１ブロック分の領域をキャッシュメモリ上に確保する。キャッシュ管理部は、更に１ブロック分の領域をキャッシュメモリ上に確保する（Ｓ３０４）。これは、今回のアクセス対象となっているブロックが属するパリティグループのパリティデータをもキャッシュメモリ上に登録するためである。

【００７７】例えば、上位装置が実際に必要としているデータはＬＢ－１１のみであったとしても、本実施例にかかるディスク制御装置では、当該データ（本実施例にあってはＬＢ－１１）の属するパリティグループのパリティデータ（Ｐ２）をもキャッシュメモリ上に登録することになる。キャッシュ管理部は、キャッシュメモリへデータを登録するために確保した２ブロック分の領域を、アクセス対象となっているデータを含むブロックとパリティグデータを含むブロックとに割当てる。キャッシュ管理部は、この情報をエントリテーブルに記録する（Ｓ３０５）。

【００７８】キャッシュ管理部は、今回登録されるブロ

ックはパリティグループ内の三つ目のブロックに相当することを計算により求めることができる。したがって、キャッシュ管理部はビットマップとして０００１を作成する。そして、キャッシュ管理部はエントリテーブルにこの情報を記録する。これで、キャッシュ管理部によるエントリテーブルに対する新規エントリの登録は完了する（Ｓ３０７）。

【００７９】次に、キャッシュ管理部は、リンクテーブルの更新を行う。キャッシュ管理部は、新規に作成したエントリをＬＲＵリンクの最上位に登録する（Ｓ３０９）必要が有る。このため、キャッシュ管理部はリンクテーブルとポインタテーブルを更新する。　まず、キャッシュ管理部は、ポインタテーブルを参照して現在の最上位論理ブロックを把握する。次に、キャッシュ管理部は、リンクテーブルの新規エントリに対応する登録を有効にする。このため、キャッシュ管理部はＦｒｏｗａｒｄポインタには無効値を代入し、Ｂａｃｋｗａｒｄポインタには現在の最上位ポインタを登録する。その後、キャッシュ管理部は、今回最上位の地位を譲った論理ブロックのＦｏｒｗａｒｄポインタを新たに今回最上位に位置づけられた論理アドレスに変更する。

【００８０】今回、新たに登録された論理アドレスが１１であるとすれば、キャッシュ管理部はリンクテーブル上の論理ブロック１１のＦｏｒｗａｒｄポインタを無効値（ｘｘ）に、Ｂａｃｋｗａｒｄポインタを１３に変更する。更にキャッシュ管理部は、論理ブロック１３のＦｏｒｗａｒｄポインタも１１に変更する。また、キャッシュ管理部は、ポインタテーブルのトップポインタの値も１３から１１に変更する。次に、キャッシュ管理部は論理ブロック１１を格納するキャッシュメモリ上のアドレスを記録する。これでキャッシュ管理部によるテーブルの更新が完成する。

【００８１】最後に、キャッシュ管理部は、ＬＢ－１１に対応するディスク装置（物理アドレスＤｉｓｋ４／Ｂｌｏｃｋ２）及びＰ２を格納しているディスク装置（物理アドレスＤｉｓｋ２／Ｂｌｏｃｋ２）に対し、リンクテーブル及びエントリテーブルに登録されたキャッシュメモリアドレスに対して、データを転送するように指示する。

【００８２】このようにして、キャッシュ管理部は、アクセス対象となっているディスク装置のみならず、パリティデータを格納しているディスク装置に対しても、格納されているデータをキャッシュメモリ上に転送するように指示するのである。以上により、本発明における入出力制御装置は、上位装置から指定されたデータとともに当該データを格納しているブロックが属するパリティグループに含まれるパリティデータをキャッシュメモリ上に格納することができる。

【００８３】なお、本実施例おいては、リンク管理テーブルの更新はキャッシュメモリへのデータの登録前に行われることとしている。しかし、これはキャッシュメモリへのデータの登録を確認した後にリンクテーブルを更新するという手段を排除するものではない。アクセス対象のデータ及びパリティデータのキャッシュメモリへの転送が終了すると、キャッシュ管理部は、上位装置から転送を要求されたブロックのデータが格納されているキャッシュメモリ上の領域とともに、データがキャッシュメモリ上に登録されたことを、制御部に通知する（Ｓ１２５４）。

【００８４】制御部は、前記通知を受け取ると、実行中の処理を中断又は終了する。その後、制御部はキャッシュ管理部から通知されたメモリアドレスを認識し（Ｓ１２０３）、当該アドレスからデータを読み出す（Ｓ１２０４）。なお、アクセス対象となった論理ブロックのデータが、キャッシュメモリ上に記憶されていない場合であっても、エントリテーブルに当該ブロックの属すべきパリティグループのエントリが登録されている場合もある。これは、当該論理ブロックへのアクセスが行われる以前に同一パリティグループ内の他の論理ブロックへのアクセスがあった場合に生じる。

【００８５】このような場合には、キャッシュ管理部は、リンクテーブルの更新を行った後、エントリテーブル上の対応するエントリに当該アクセス対象となったデータの情報を書き込むだけで良い。具体的には、キャッシュ管理部は、パリティグループ内のブロック位置を計算し、該当エリアにキャッシュメモリ上のアドレスを記録し、ビットマップを更新することとなる。

（３）キャッシュメモリからのデータの追い出し

キャッシュメモリ上に登録されているデータを追い出す場合の動作は、キャッシュ管理部内の動作に閉塞される。したがって、既に説明した内容と異なるところはないので、以下具体的な数値を例示しつつ、簡単に説明する。

【００８６】キャッシュ管理部は、ポインタテーブルを参照してキャッシュメモリからの追い出しの対象となる論理ブロックを認識する。キャッシュ管理部は、リンクテーブルから追い出し対象のブロックを検索する。キャッシュ管理部は、追い出しブロックを発見したら、当該ブロックの登録を無効とする。また、キャッシュ管理部は当該ブロックのＦｏｒｗａｒｄポインタを参照して、次に最下位に位置づけられる論理ブロックを認識する。キャッシュ管理部は、再びリンクテーブルを検索して、次に最下位に位置づけられる論理ブロックのエントリを探し出す。キャッシュ管理部は、当該エントリのｂａｃｋｗａｒｄポインタに無効値を代入する。

【００８７】次に、キャッシュ管理部は、エントリテーブルから追い出し対象のブロックに関する情報を削除する処理を開始する。キャッシュ管理部は、追い出し対象となっているブロック番号をエントリテーブルの「対象ブロック番号」の項から探し出す。キャッシュ管理部

は、目的のエントリを検出した後、リンクテーブルから対象ブロックを削除する。その後、キャッシュ管理部は、エントリテーブルの「対象ブロック」を参照して、削除対象となるブロックが含まれているエントリを探し出す。

【００８８】キャッシュ管理部は、目的のエントリを探し出した後、ビットマップを更新する。本実施例にあっては、追い出し対象の論理アドレスを３としている。したがって、キャッシュ管理部は現在のビットマップと１１１０との論理積を新たなビットマップとする。

【００８９】論理積を求めた結果、ビットマップが０００００となれば、当該パリティグループに属するデータはキャッシュメモリ上に存在しないことを意味する。したがって、キャッシュ管理部はキャッシュメモリを効率的に利用するためにパリティデータも追い出す。そして、キャッシュ管理部は当該エントリの「対象ブロック」の項に無効値を記録し、エントリも解放する。

【００９０】ビットマップが０００００以外であれば、当該パリティグループに属するデータのいずれかがキャッシュメモリ上に存在していることとなる。したがって、キャッシュ管理部はビットマップの更新のみを行う。キャッシュ管理部は、パリティデータをキャッシュメモリ上に維持し、エントリも削除しない。

Ｂ．パリティグループを一単位として管理する場合の実施例

（１）キャッシュヒットの場合

図１１に示すオペレーションフローは、読み出し要求対象のデータがキャッシュメモリ上に記憶されている場合の制御部及びキャッシュ管理部の動作を示している。

【００９１】制御部は、上位装置からの読み出し要求を受け付けると、まず対象データがキャッシュメモリ上に存在するか否かを判断する必要がある。このために、制御部はキャッシュ管理部にその旨を問い合わせる（Ｓ１１０１）。この問い合わせは、上位装置から指定される論理アドレスを伴って行われる。これは前述した実施例Ａの場合と同様である。

【００９２】キャッシュ管理部は、制御部から通知されたデータがキャッシュメモリ上に記憶されいてるか否かを判断する必要がある。このために、キャッシュ管理部は管理テーブル内のエントリテーブルを参照する。エントリテーブルの一例は図１４に示す。エントリテーブルの構造は、実施例Ａの場合と異なる。

【００９３】エントリテーブルはエントリ番号と、対象ブロック番号と、キャッシュ格納アドレスとから構成されている。キャッシュメモリ上に登録されたデータは、登録された順にエントリテーブルに追加される。そして、各データには昇順にエントリ番号が割当てられる。図は、ＬＢ－０～ＬＢ－３、ＬＢ－４～ＬＢ－７、ＬＢ－８～ＬＢ－Ｂ、ＬＢ－Ｃ～ＬＢ－Ｆの順で登録され、それぞれ０～３のエントリ番号が与えられたことを示している。

【００９４】本実施例にあっては、キャッシュメモリ上に対象データが存在すると仮定している。したがって、キャッシュ管理部は、前記エントリテーブルを参照した結果、対象となるブロックを含む有効なエントリが存在することを発見する。そして、キャッシュ管理部はキャッシュメモリ上に当該データが存在すると認識することとなる（Ｓ１１５１）。

【００９５】以下、実施例Ａの場合と同様であるので、説明は省略する。

（２）キャッシュミスの場合

図１２のオペレーションフローは、読み出し要求対象のデータがキャッシュメモリ上に記憶されていない場合の制御部及びキャッシュ管理部の動作を示している。

【００９６】制御部は、上位装置からの読み出し要求を受け付けると、対象データがキャッシュメモリ上に存在するかいなかを判断する必要がある。制御部は、このためにキャッシュ管理部にその旨を問い合わせる（Ｓ１２０１）。この問い合わせは、キャッシュヒットの実施例で示した場合と同様に論理アドレスを伴って行われる。

【００９７】キャッシュ管理部は、制御部から通知されたデータがキャッシュメモリ上に登録されているか否かを判断する必要がある。このために、キャッシュ管理部はキャッシュヒットの実施例で説明した場合と同様にエントリテーブルを参照する。本実施例においては、キャッシュメモリ上に対象データが存在しないと仮定している。したがって、キャッシュ管理部は、前記エントリテーブルを参照した結果、対象となるデータを含む有効なエントリを発見できない（Ｓ１２５１）。

【００９８】具体的には、キャッシュ管理部は、エントリテーブルを参照して、「該当ブロック」の項に当該論理ブロックが登録されているか否かを判断する。例えば、上位装置が指定した論理アドレスが１１であって、エントリテーブルが図１４に示す状態であったとすると、論理ブロック１１は登録されていないこととなる。キャッシュ管理部は、対象データがキャッシュメモリ上に登録されていない旨及び当該データをディスク装置からキャッシュメモリ上に読込む処理に移行する旨を制御部に通知する（Ｓ１２５２）。

【００９９】対象データがキャッシュメモリ上に登録されていない旨の通知を受けた制御部は、キャッシュ管理部が対象データをキャッシュメモリ上に登録するまで、上位装置から受け付けた処理を一時中断する（Ｓ１２０２）。制御部は、この間別の処理を進める。キャッシュ管理部は、制御部から通知された論理アドレスを物理アドレスに変換する。これによりキャッシュ管理部は、対象データが格納されているディスク装置及び当該ディスク装置内のブロック番号求める。キャッシュ管理部は、当該ブロックが属するパリティグループの全てのデータをキャッシュメモリ上に読み込む（Ｓ１２５３）。この

動作を図15に示したフローチャートを用いて説明する。

【0100】キャッシュ管理部は、論理アドレスを前述した計算式及び図9を利用して物理アドレスに変換する。例えば、上位装置が指定した論理アドレスが11であったとすると、前述した通り、値A＝3、値B＝2、値C＝2となる。したがって物理アドレスはDISK4／Block2となる。　キャッシュ制御装置は、アクセス対象となるブロックを前記の計算により求める。その後、キャッシュ管理部は当該ブロックに格納されているデータを格納するための領域をキャッシュに割当てる。

【0101】キャッシュメモリ上への領域の割当ては、エントリテーブルにエントリを確保することから始められる。キャッシュ管理部は、エントリテーブルを参照し、新規の登録が可能であるか否かを判断する（S1501）。キャッシュ管理部は、空きが無いと判断した場合はリンクの最下位のエントリを追出す（S1551）。この処理は前述した追出し処理の項で説明したものである。。

【0102】この時のテーブルの状況が例えば図14の状態であったととする。図ではエントリ4が未使用であるので、キャッシュ管理部は新たな領域をエントリ4として登録することとする。エントリテーブルに新規エントリの登録が可能である場合、あるいは最下位のエントリを解放した場合は、キャッシュ管理部は、今回対象となっているデータを登録するための1ブロック分の領域をキャッシュメモリ上に確保する。また、キャッシュ管理部は、更に4ブロック分の領域をキャッシュメモリ上に確保する（S1502）。これは、キャッシュ管理部が、今回のアクセス対象となっているブロックが含まれるパリティグループに属する全てのブロックのデータをキャッシュメモリ上に登録するためである。

【0103】例えば、上位装置が実際に必要としているデータはLB－11のみであったとする。この場合でも、本発明にかかるディスク制御装置は、当該データ（本実施例にあってはLB－11）の属するパリティグループを形成している残りのデータの全て（LB－8、LB－9、P2、LB－10）をキャッシュメモリ上に登録することになる。

【0104】キャッシュ管理部は、キャッシュメモリへデータを登録するために確保した5ブロック分の領域を、パリティグループを構成するそれぞれの論理ブロックに割当てる（S1503）。そしてキャッシュ管理部は、その情報をエントリテーブルに記録する。これにより、エントリテーブルに対する新規エントリの登録は完成する（S1504）。

【0105】キャッシュ管理部は、新規に作成したエントリをLRUリンクの最上位に登録する（S1506）。このため、キャッシュ管理部はリンクテーブルとポインタテーブルを更新する。ポインタテーブルを図13（A）にリンクテーブルを図13（B）に示す。まず、キャッシュ管理部は、ポインタテーブルを参照して現在の最上位エントリを把握する。次に、キャッシュ管理部は、リンクテーブルに登録する新規エントリを有効にする。このために、キャッシュん管理部はForwardポインタには無効値を代入し、Backwardポインタには現在の最上位エントリを登録する。その後、キャッシュ管理部は、今回最上位の地位を譲ったエントリのForwardポインタを新たに今回最上位に位置づけられたエントリ値に変更する。　例えば今回新たに登録されたエントリが4であるとする。この場合、キャッシュ管理部は、リンクテーブル上のエントリ4のForwardポインタを無効値（xx）に、Backwardポインタを3に変更する。更に、キャッシュ管理部はエントリ3のFrowardポインタを4に変更する。また、キャッシュ管理部はポインタテーブルのトップポインタの値を3から4に変更する。これで、テーブルの更新は完成する。

【0106】最後に、キャッシュ管理部は、各ディスク装置に対し、エントリテーブルに登録されたキャッシュメモリアドレスに対して、データを転送するように指示する。つまり、キャッシュ管理部は、パリティグループを構成する全てのディスク装置に対して、データをキャッシュメモリ上に格納するように指示するのである。

【0107】なお、本実施例おいては、リンクテーブルの更新は、キャッシュメモリへのデータの登録前に行うこととしている。しかし、これはキャッシュメモリへのデータの登録を確認した後にリンクテーブルを更新するという手段を排除するものではないことは、実施例Aの場合と同様である。　以上で、パリティグループを構成するブロックに含まれる全てのデータをキャッシュメモリ上に登録する処理が終了する。

【0108】以下、制御部のデータ転送についての動作は実施例Aと同様であるので省略する。

（3）キャッシュメモリからのデータの追い出し

本実施例におけるデータの追い出しは、前述した実施例Aのデータの追い出しと同様に制御されるので、説明は省略する。

【0109】

【発明の効果】請求項1、請求項4、請求項5 及び請求項8 に記載された発明にあっては、データがキャッシュメモリ上に登録されている限りパリティデータをキャッシュメモリ上に維持することができる。このため、キャッシュメモリ上に登録されているデータに対応するパリティデータは、必ずキャッシュメモリ上に存在することとなる。したがって、キャッシュメモリ上に登録されているデータに対する書込み処理は、全ての動作をキャッシュメモリ上で処理することができるので、大幅な処理速度の向上が図れる。

【0110】請求項2に記載された発明にあっては、既にキャッシュメモリに登録されているパリティデータについては、再度のデータ転送を抑止することができる。したがって、パリティデータのキャッシュメモリ上への登録及び追出しを最も効率よく行うことができる。すなわちパリティデータに関するディスクアクセスを最小回数に抑止することができるので、装置全体としての処理能力向上にも貢献する。

【0111】請求項3記載された発明にあっては、パリティデータを一般のユーザデータと区別して取り扱うことができる。したがって、装置の保守性を向上させることができる。請求項6に記載された発明にあっては、予めパリティデータをキャッシュメモリ上に登録しておくことができる。このため、上位装置から初めての書込み処理を要求された際にディスク装置へのアクセスを改めて行わないで済む。したがって、装置全体としての処理性能を維持つつ、書込み動作を高速に処理することが可能となる。

【0112】請求項7に記載された発明にあっては、あるパリティグループに含まれる全てのデータを一群のデータとして管理できる。したがって、各手段の構成を簡素化することが可能であり、処理速度の向上にも貢献する。繰り返し述べると、本発明によれば、あるデータがキャッシュメモリ上に登録されている限り、必ず当該データが属するパリティグループのパリティデータがキャッシュメモリ上に存在することとなる。

【0113】このため、データの書込み処理が発生しても、ディスク装置からのパリティデータの読み込みが全く不要である。したがって、本発明にかかる入出力制御装置は、書込みを高速に処理することが可能である。つまり、本発明によれば、上位装置が必要とするデータ（以下、「ユーザデータ」という。）に対応したパリティデータのみをキャッシュメモリ上に登録しつづけることとなる。このため、パリティデータの無駄な追い出しや無駄な保持がなくなり、性能向上に貢献する。更にキャッシュメモリの有効利用も可能となる。これは、パリティデータとユーザデータを区別せずに単にキャッシュ管理をする装置では達成不可能な効果である。

【0114】また、本発明にかかる入出力制御装置は、書込み処理又は読み出し処理に関わらず、あるパリティグループに対する最初のアクセスで、ホストとの間で転送されるデータとともにパリティデータをキャッシュメモリに登録する。これにより、ディスクへのアクセスが最小限に抑止されるため性能向上に寄与する。つまり、パリティデータは書込みの際には必ず読み出す必要があるが、本発明によれば、書込み処理とは同期させずにパリティデータをキャッシュメモリ上に格納することができるので、見かけ上ディスク待ち時間が削減可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るキャッシュ管理部の構成図

【図2】キャッシュ管理部の制御動作全体を示すフローチャート

【図3】キャッシュ管理部のデータ登録動作を示すフローチャート

【図4】キャッシュ管理部のデータ追出し動作を示すフローチャート

【図5】管理テーブルの一例を示した図

（A）ポインタテーブル

（B）リンクテーブル

【図6】エントリテーブルの一例を示した図

【図7】入出力制御装置の全体構成図

【図8】ディスク装置のデータ配置の模式図

【図9】論理ブロック変換表

【図10】制御部の制御動作全体を示すフローチャート

【図11】キャッシュヒットの場合の、制御部とキャッシュ管理部との連携動作を示すオペレーションフロー

【図12】キャッシュミスの場合の、制御部とキャッシュ管理部との連携動作を示すオペレーションフロー

【図13】管理テーブルの一例を示した図

（A）ポインタテーブル

（B）リンクテーブル

【図14】エントリテーブルの一例を示した図

【図15】キャッシュ管理部のデータ登録動作を示すフローチャート

【図16】従来のキャッシュ管理部の構成図

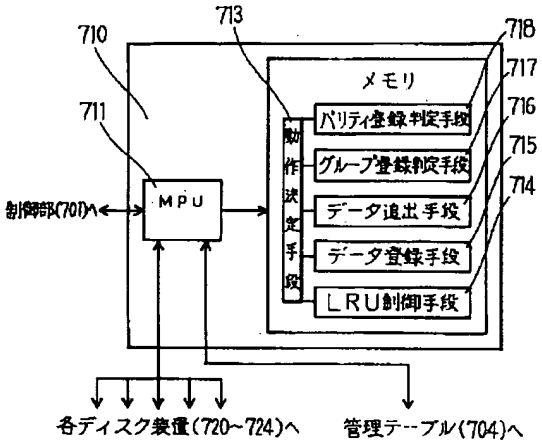
【図6】

	対象ブロック	Bit Map	0Block	1Block	2Block	3Block	パリティ
0	LB-0~LB-3	0001				0x0003	0x0004
1	LB-16~LB-19	0010			0x0030		0x0005
2	LB-4~LB-7	1000	x0011				0x0015
3	LB-12~LB-15	0100		0x1029			0x102C
4							

【図9】

値C ＼ 値A	0	1	2	3	Parity
0	Disk0	Disk1	Disk2	Disk3	Disk4
1	Disk0	Disk1	Disk2	Disk4	Disk3
2	Disk0	Disk1	Disk3	Disk4	Disk2
3	Disk0	Disk2	Disk3	Disk4	Disk1
4	Disk1	Disk2	Disk3	Disk4	Disk0

【図1】



【図5】

Top	Bottom
13	3

(A)

エントリ	Forward	Backward
3	18	XX
18	4	3
4	13	18
13	XX	4

(B)

【図13】

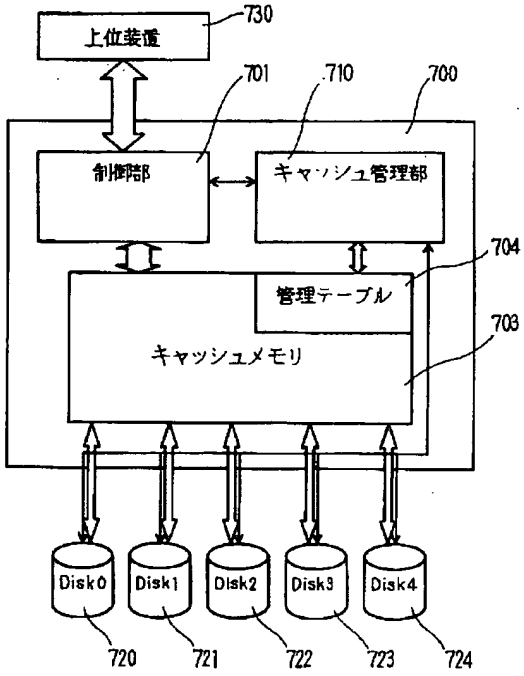
Top	Bottom
3	0

(A)

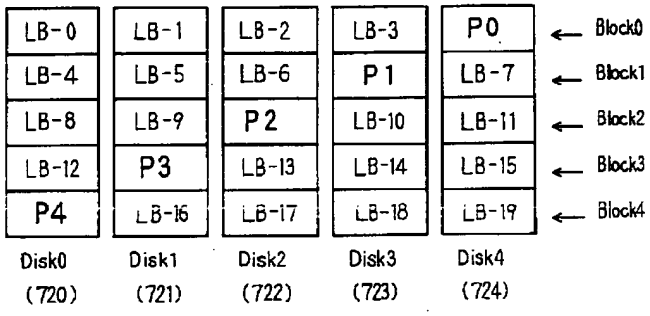
エントリ	Forward	Backward
0	1	XX
1	2	0
2	3	1
3	XX	2
4		

(B)

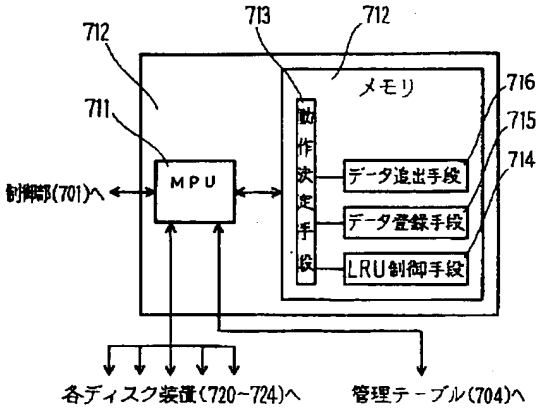
【図7】



【図8】



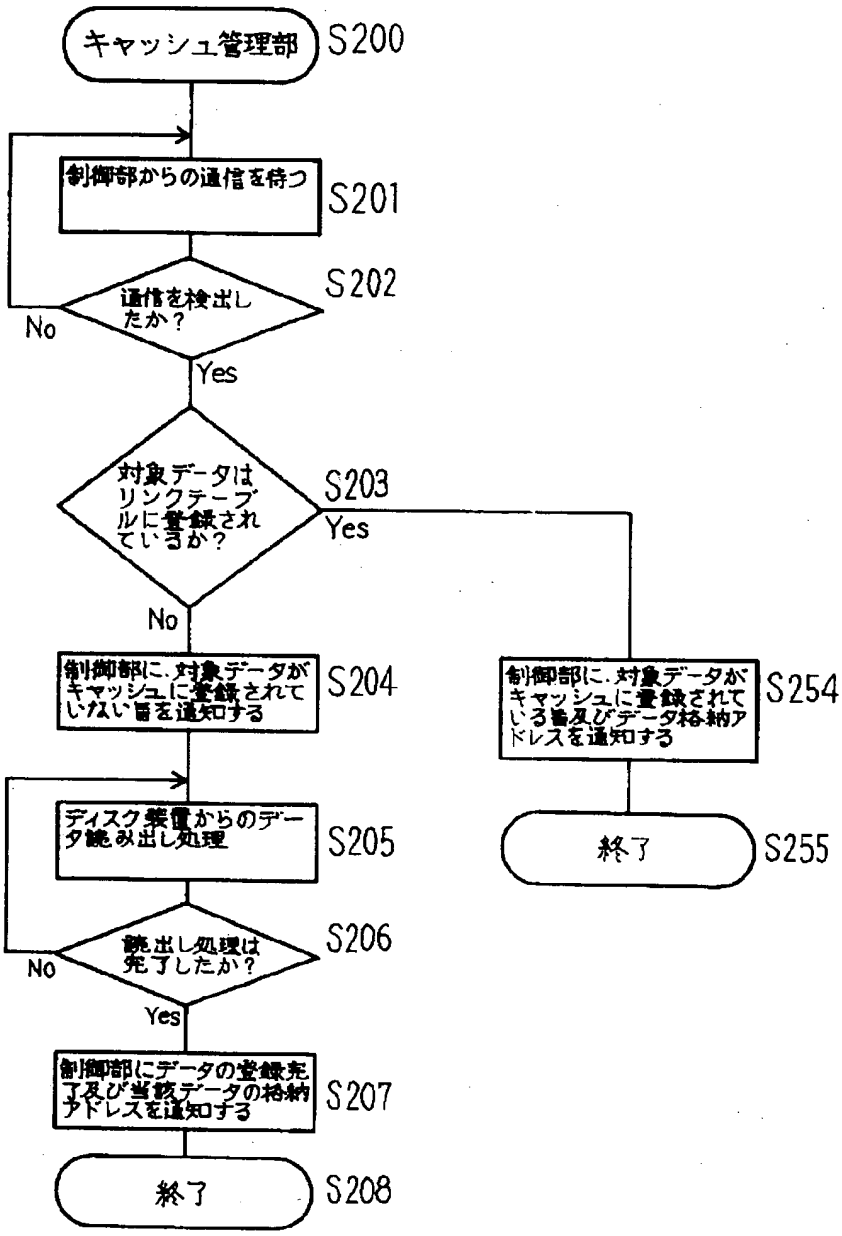
【図16】



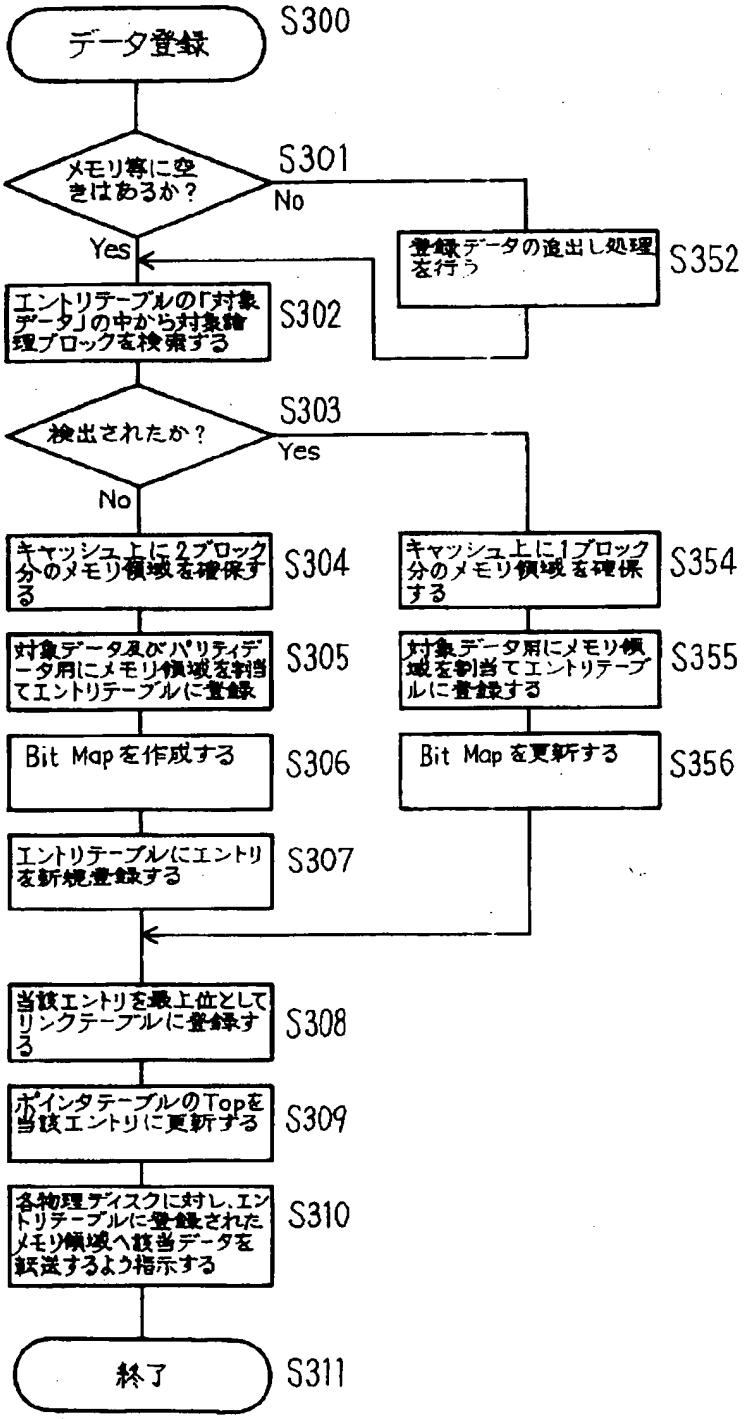
【図14】

	対象ブロック	0Block	1Block	2Block	3Block	パリティ
0	LB-0~LB-3	0x0000	0x0001	0x0002	0x0003	0x0004
1	LB-16~LB-19	0x0010	0x0021	0x0030	0x0034	0x0005
2	LB-4~LB-7	0x0011	0x0012	0x0013	0x0014	0x0015
3	LB-12~LB-15	0x1028	0x1029	0x102A	0x102B	0x102C
4						

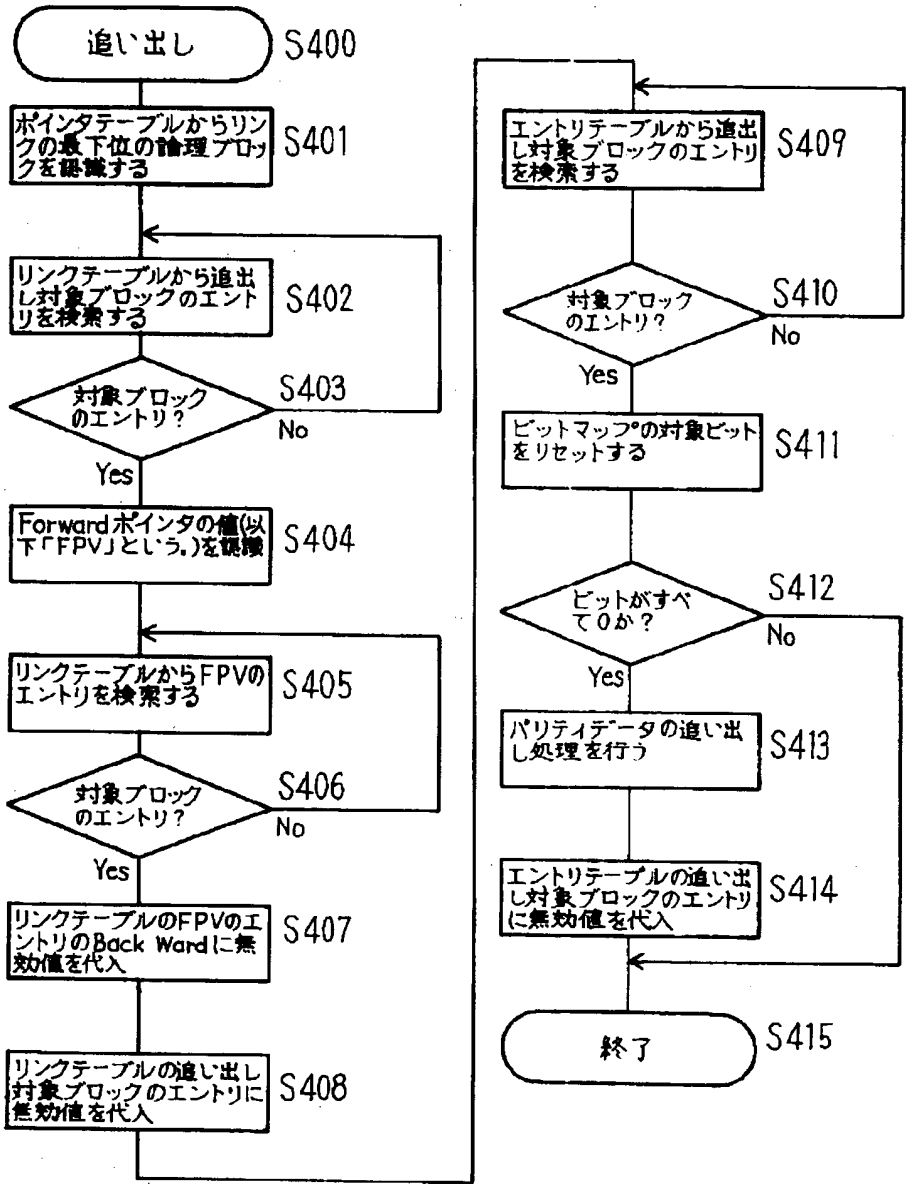
【図2】


キャッシュ管理部
S200
制御部からの通信を待つ
S201
通信を検出したか？
S202
No
Yes
対象データはリンクテーブルに登録されているか？
S203
Yes
No
制御部に、対象データがキャッシュに登録されていない旨を通知する
S204
ディスク装置からのデータ読み出し処理
S205
読出し処理は完了したか？
S206
No
Yes
制御部にデータの登録完了及び当該データの格納アドレスを通知する
S207
終了
S208
制御部に、対象データがキャッシュに登録されている旨及びデータ格納アドレスを通知する
S254
終了
S255

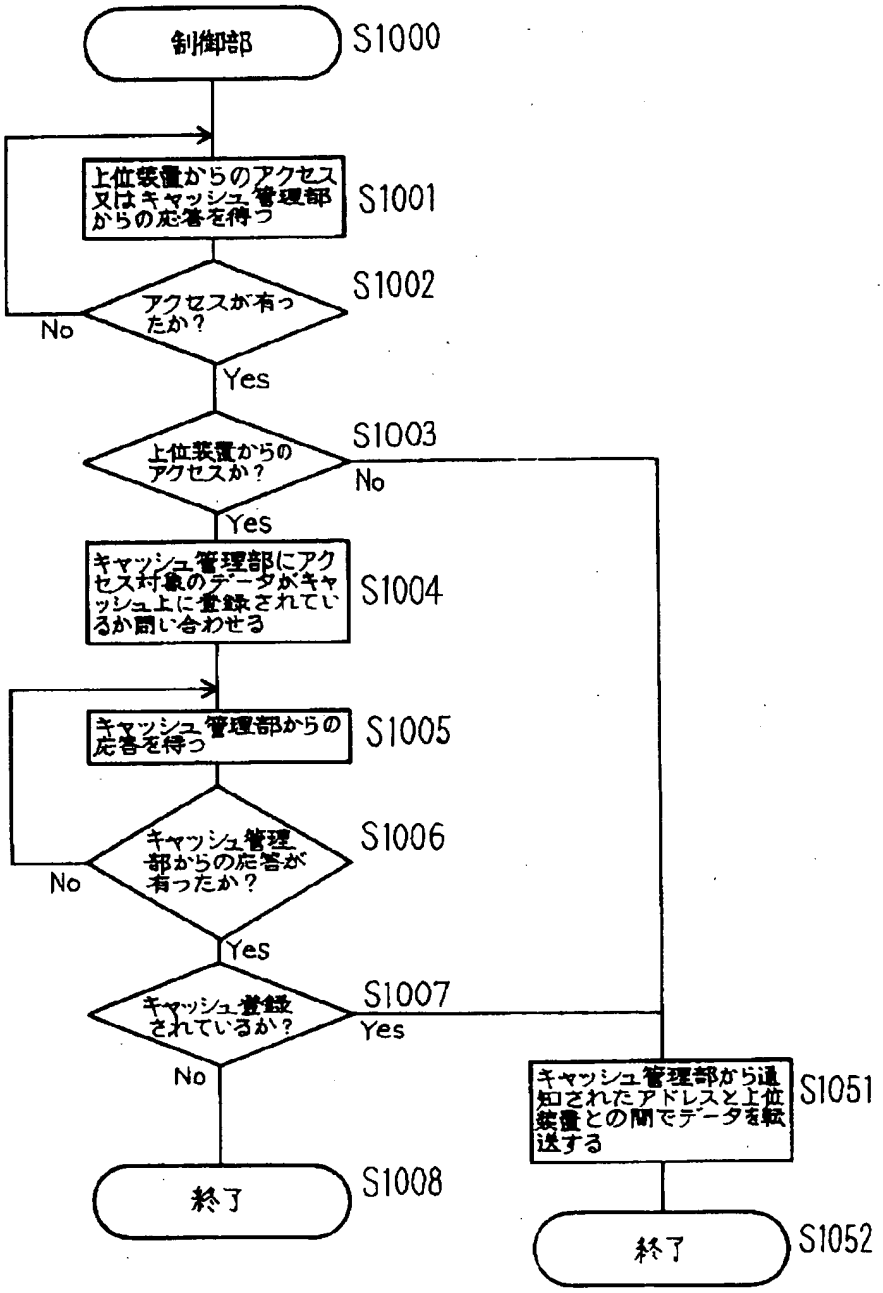
【図3】


データ登録
S300
メモリ等に空きはあるか？
S301
No
Yes
登録データの追出し処理を行う
S352
エントリテーブルの「対象データ」の中から対象論理ブロックを検索する
S302
検出されたか？
S303
Yes
No
キャッシュ上に2ブロック分のメモリ領域を確保する
S304
キャッシュ上に1ブロック分のメモリ領域を確保する
S354
対象データ及びパリティデータ用にメモリ領域を割当てエントリテーブルに登録
S305
対象データ用にメモリ領域を割当てエントリテーブルに登録する
S355
Bit Map を作成する
S306
Bit Map を更新する
S356
エントリテーブルにエントリを新規登録する
S307
当該エントリを最上位としてリンクテーブルに登録する
S308
ポインタテーブルのTopを当該エントリに更新する
S309
各物理ディスクに対し、エントリテーブルに登録されたメモリ領域へ該当データを転送するよう指示する
S310
終了
S311

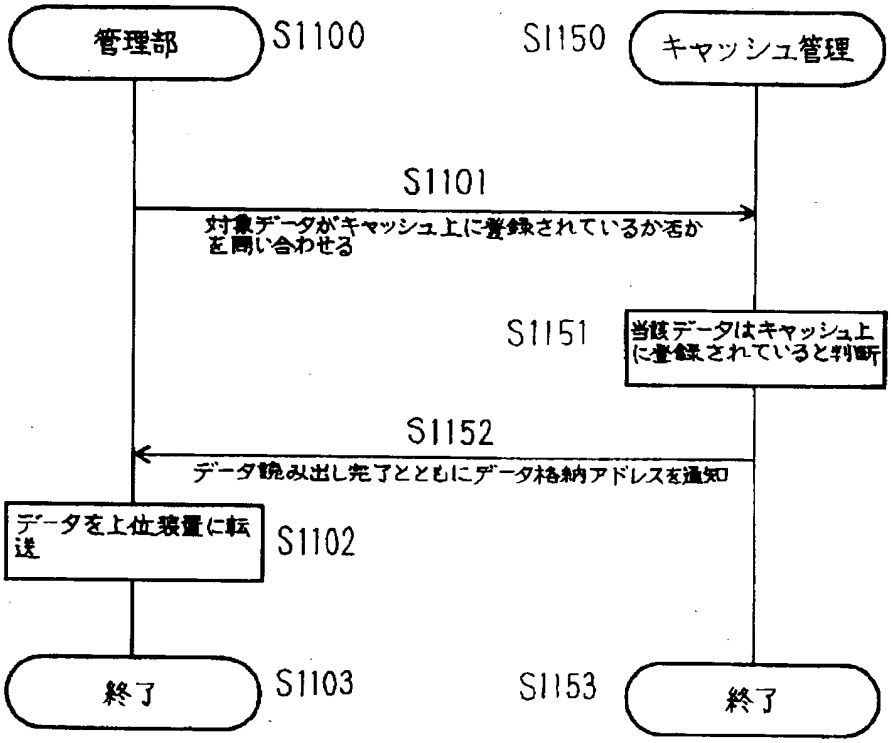
【図4】


追い出し
S400
ポインタテーブルからリンクの最下位の論理ブロックを認識する
S401
リンクテーブルから追出し対象ブロックのエントリを検索する
S402
対象ブロックのエントリ？
S403
No
Yes
Forwardポインタの値(以下「FPV」という。)を認識
S404
リンクテーブルからFPVのエントリを検索する
S405
対象ブロックのエントリ？
S406
No
Yes
リンクテーブルのFPVのエントリのBack Wardに無効値を代入
S407
リンクテーブルの追い出し対象ブロックのエントリに無効値を代入
S408
エントリテーブルから追出し対象ブロックのエントリを検索する
S409
対象ブロックのエントリ？
S410
No
Yes
ビットマップの対象ビットをリセットする
S411
ビットがすべて0か？
S412
No
Yes
パリティデータの追い出し処理を行う
S413
エントリテーブルの追い出し対象ブロックのエントリに無効値を代入
S414
終了
S415

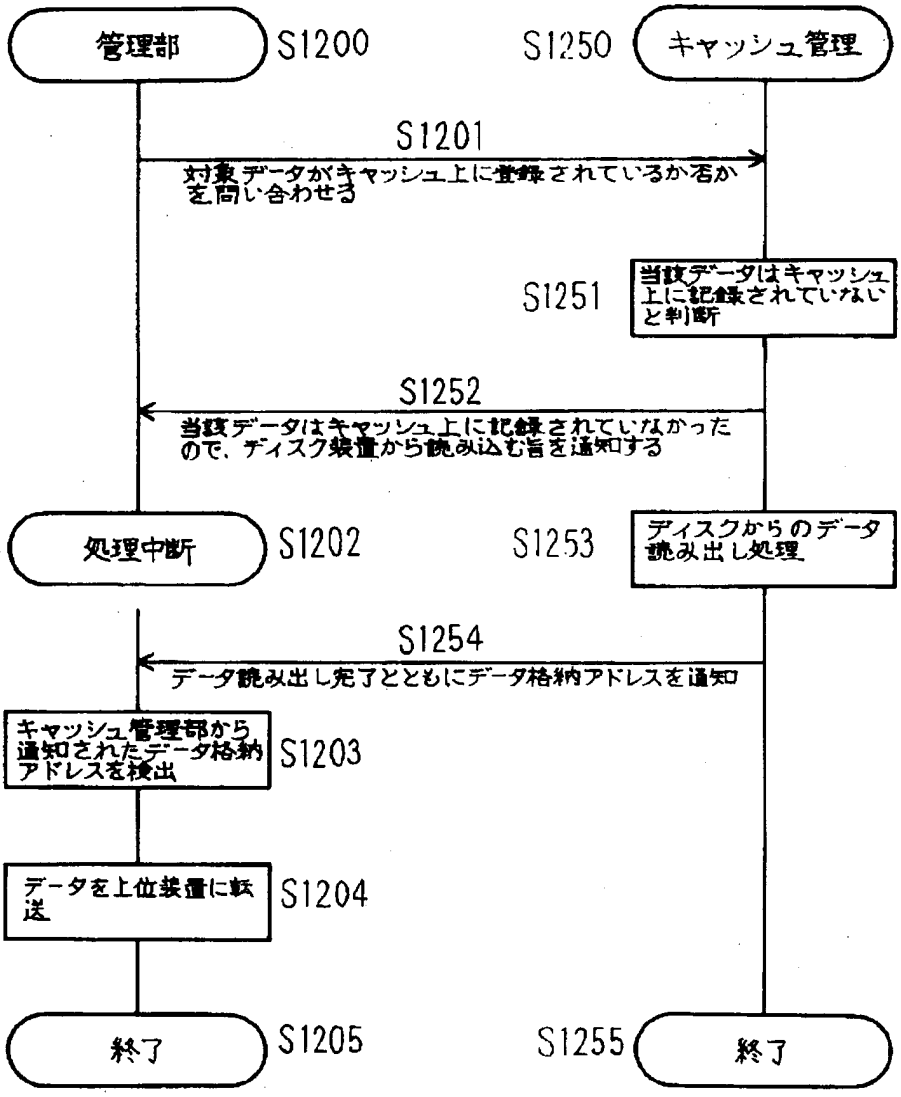
【図10】


制御部
S1000
上位装置からのアクセス又はキャッシュ管理部からの応答を待つ
S1001
アクセスが有ったか？
S1002
No
Yes
上位装置からのアクセスか？
S1003
No
Yes
キャッシュ管理部にアクセス対象のデータがキャッシュ上に登録されているか問い合わせる
S1004
キャッシュ管理部からの応答を待つ
S1005
キャッシュ管理部からの応答が有ったか？
S1006
No
Yes
キャッシュ登録されているか？
S1007
Yes
No
キャッシュ管理部から通知されたアドレスと上位装置との間でデータを転送する
S1051
終了
S1008
終了
S1052

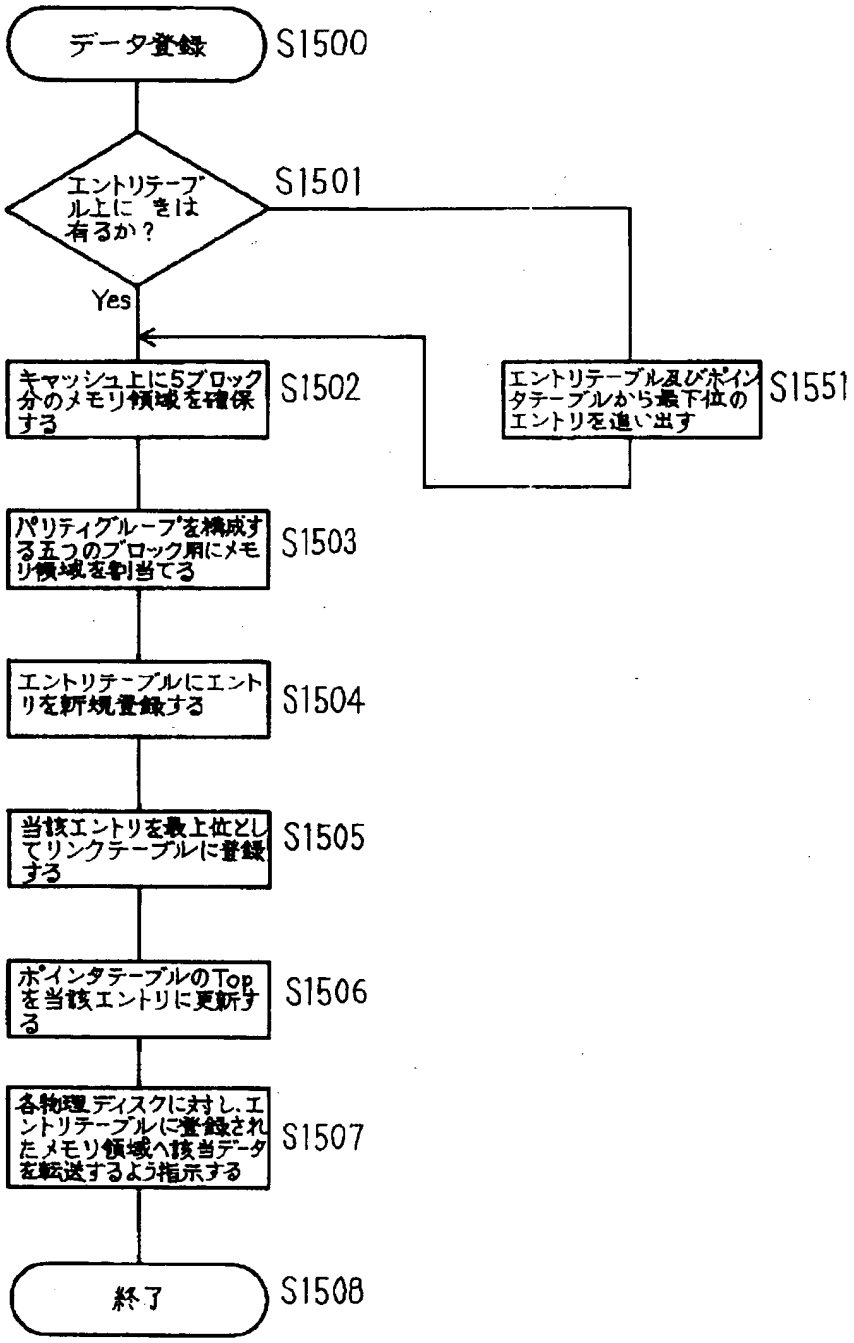
【図11】


管理部
S1100
S1150
キャッシュ管理
S1101
対象データがキャッシュ上に登録されているか否かを問い合わせる
S1151
当該データはキャッシュ上に登録されていると判断
S1152
データ読み出し完了とともにデータ格納アドレスを通知
データを上位装置に転送
S1102
終了
S1103
S1153
終了

【図12】


管理部
S1200
S1250
キャッシュ管理
S1201
対象データがキャッシュ上に登録されているか否かを問い合わせる
S1251
当該データはキャッシュ上に記録されていないと判断
S1252
当該データはキャッシュ上に記録されていなかったので、ディスク装置から読み込む旨を通知する
処理中断
S1202
S1253
ディスクからのデータ読み出し処理
S1254
データ読み出し完了とともにデータ格納アドレスを通知
キャッシュ管理部から通知されたデータ格納アドレスを検出
S1203
データを上位装置に転送
S1204
終了
S1205
S1255
終了

【図15】


データ登録
S1500
エントリテーブル上にきは有るか？
S1501
Yes
キャッシュ上に5ブロック分のメモリ領域を確保する
S1502
エントリテーブル及びポインタテーブルから最下位のエントリを追い出す
S1551
パリティグループを構成する五つのブロック用にメモリ領域を割当てる
S1503
エントリテーブルにエントリを新規登録する
S1504
当該エントリを最上位としてリンクテーブルに登録する
S1505
ポインタテーブルのTopを当該エントリに更新する
S1506
各物理ディスクに対し、エントリテーブルに登録されたメモリ領域へ該当データを転送するよう指示する
S1507
終了
S1508